

## 東京都

# 新宿区

## 多文化共生のまち新宿



新宿区地域文化部文化観光国際課

### 多様性に富んだまち

新宿区は東京23区のほぼ中央に位置し、31万人を超える人々が暮らしています。「新宿」の名前は、甲州街道の宿場として「内藤新宿」が開設されたことに由来します。新宿は、駅西口の高層ビル群や東口の歌舞伎町に代表される繁華街のイメージが強いのですが、緑濃い住宅街や地域の風情ある商店街、江戸の歴史を感じさせる路地、アジアンテイストな通りを有し、また神田川、外濠などの水辺や、新宿御苑などの緑が豊富です。

このように、新宿は実にさまざまな顔を持ち、懐が深く、活力に満ちた愛すべきまちなのです。

### 外国人が多く住むまち

宿場のまちとして誕生した新宿は、国内からも海外からも多くの人が集まり、多様な文化を持つ人々が共に暮らすまちとなっています。新宿区の外国人登録者数は現在約3万5千人で、9人に1人は外国人です。その内訳は、約1万4千人が韓国・朝鮮籍、約1万2千人が中国籍です。また多い月で119の国籍の外国人が住んでいて、まさに世界各国の人々が集うまちなのです。

1985年に約1万人だった外国人登録者数は、1999年には2万人を超え、以後も増え続けて今日に至っています。特に大久保地域は、4人に1人が外国人で、多国籍な料理店や食材店、多くの日本語学校があり賑わっています。

### 多文化共生のまちづくり

#### 1 新宿区の基本的スタンス

新宿区は、こうした状況を踏まえ、都市の魅力である多様性を尊重し、外国籍住民が多く住み暮らすことを区の特徴としてプラスメッセージを発信できるよう「多文化共生のまちづくり」を推進しています。今年度は、新たに専任の課長級職員として多文化共生担当副参事のポストを設置し、体制強化を図りました。新宿区の外郭団体である公益財団法人新宿未来創造財団と連携しながら、さまざまな多文化共生施策に取り組んでいます。

#### 2 しんじゅく多文化共生プラザ

多文化共生施策の拠点として、2005年9月に「しんじゅく多文化共生プラザ」を、歌舞伎町2丁目に開設しました。多目的スペース、資料情報コーナー、日本語学習コーナー、外国人相談コーナーを設け、毎月約2千人の外国人や日本人が利用し



しんじゅく多文化共生プラザ周年行事

ています。2010年3月末で利用者は10万人を超えました。外国人相談では、英語・中国語・韓国語の他に、タイ語とミャンマー語の相談にも応じています。また、同じスペースに東京入国管理局が運営する外国人総合相談支援センターが入っています。入国や在留資格の件で相談に来た外国人が、同時に生活相談もできるようなワンストップ相談対応も可能です。今年度専任の所長を置き、今まで以上に能動的に活動していく予定です。

### 3 日本語学習への支援

多文化共生のまちづくりを進めるためには、お互いのコミュニケーションツールである日本語の習得が欠かせません。このため、新宿区日本語教室を区内10カ所の施設で展開するほか、しんじゅく多文化共生プラザではボランティアが、対話形式で日本語を教えています。

また、子どもに対する日本語の適応指導にも力を入れています。学校に指導員を派遣して、母語を使った個別の日本語指導や、区立教育センターでの集中指導を行っています。

さらに、新宿区の委託事業として区内の子育て施設2カ所を利用して、小中学生に日本語指導と学習支援を行っています。この取り組みは、放課後に実施することで子どもの居場所としての役割も果たしています。



日本語教室の様子

### 4 情報提供

新宿区では、外国人への情報提供を積極的に行っています。行政サービスや日本の生活習慣などさまざまな情報を知ってもらうことが重要と考え、多言語による情報提供の充実を図っています。分野別に必要な情報を手にとってもらえる

ように、「出産・子育て・教育」など10分野の生活情報紙を発行しています。年に4回発行する外国語広報紙では、行政情報のほか地域で行われるイベントや公園の紹介などの情報も提供しています。ホームページも4言語で毎月更新し、昨年度は100万件を超えるアクセスがありました。

さらに、外国人が新宿区で新たな生活を始めるためのガイドブックとして、先輩外国人のアドバイスや暮らしの情報を紹介した「新宿生活スタートブック」を作成し、外国人登録窓口で配布しています。

こうした外国人への情報提供のために、表記の統一や提供場所を定めた「外国人への情報提供ガイドライン」を策定し、庁内での情報提供の一元化を図っています。

### 5 多文化共生のネットワーク

多文化共生のまちづくりを進めるためには、外国人を含めた地域住民や活動団体の顔の見える関係を築くことが重要です。これまで「しんじゅく多文化共生プラザ」を拠点にしたネットワーク連絡会を開催し、情報交換や意見交換を行ってきました。今年度はこの会を「多文化共生連絡会」と名称変更し、より活性化して地域課題などの解決を図っていくこととなりました。

## これからの多文化共生のまちづくり

ここまで紹介したとおり、新宿区では地域とともにさまざまな取り組みを行っていますが、まだ多くの課題があり、さらに努力していく必要があります。

新宿区は、2007年12月に新たな基本構想を策定し、3つの基本理念を掲げました。第1は「区民が主役の自治を創ります」、第2は「一人ひとりを人として大切にする社会を築きます」、そして第3は「次の世代が夢と希望を持てる社会をめざします」というものです。そして20年後の新宿区の「めざすまちの姿」を「新宿力で創造する、やすらぎとにぎわいのまち」と定めています。

新宿区は、今後も日本人と外国人が互いに理解し、尊重しあえる地域社会の実現を目指して、多文化共生のまちづくりを推進していきます。